

東洋英和女学院大学大学院

2017年度前期入学試験
春季選抜 問題

人間科学研究科人間科学専攻
修士課程 人間科学領域

(社会・社会福祉学)

小論文

東洋英和女学院大学大学院 2017年度 前期 春季 選抜 入学試験問題

人間科学研究科 人間科学専攻 専門分野（社会・社会福祉学領域）

次の「問1」と「問2」について、両問、字数指定に従って簡潔に答えよ。

問1. 次の短文を良く読み、あなたの考えを、500字から600字程度で、簡潔にまとめて述べなさい。

出典：厚生労働統計協会編『国民の福祉と介護の動向』 厚生指標 第69巻第10号
63頁より 一部訂正加筆

問 2. 福祉的な支援を必要とする人が、地域での生活、家庭での生活を続けようとする場合、支援を必要とする本人だけでなく、介護や育児を担う家族の支援も重要で、「本人支援と家族支援のバランス」といった言葉も用いられている。

以下の 2 事例について、この「本人支援と家族支援のバランス」という視点から、どのような課題があり、どのような支援が本人・家族それぞれに提供されなければならないと考えるか。それぞれについて、自分の意見を自由に述べなさい。

事例 A アルツハイマー型認知症の 72 歳の母と、40 代の息子夫婦、息子の子ども 2 人が同居している家族。息子は早くに父を亡くし、母親が働きながら育ててくれたので母親への愛情は深い。母親は「介護度 2」で、物忘れや家族への暴言があり、以前は徘徊も見られて、今はなるべく外に出ないように注意している。週に 2 回、デイサービスを利用。主な介護は息子の妻が担っている (500 字～600 字)。

事例 B 自閉症と診断された 4 歳の男児と 2 歳の妹 (障害はない)、両親の 4 人家族。男児は簡単な発語はあるが、言葉でのコミュニケーションは難しく、多動でこだわりも強い。食事も好き嫌いが激しく、排せつなどにも介助が必要。地域の療育センターに週 5 日通い、母親が育児を担っている。父親も協力的で、障害への理解は良好な両親である (500 字～600 字)。